

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)



1 自然環境の基盤である森林や河川等の保全

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)水源かん養域の保全や交流・連携の推進	みどり公園課 水保全課	市外の水源かん養域の森林保全のための人工造林	6ha	1ha	2ha	・令和6年度より新たに策定する整備計画に基づき、令和6年度から令和15年度まで計画的に新規造林を実施していく。近年造林した水源かん養域では、生育不良や鳥獣被害等が見られるため、かん養効果をより発揮するための造林候補地の選定及び既存林の補植、間伐等適切な保育管理が必要である。
		水源かん養域森林整備協定締結に基づく、上下流自治体連携による森林の造成や整備	10件	10件	10件	
(2)環境に配慮した河川整備の推進・促進	河川課	広域河川の整備(写真1)	70m	16m	115m	・令和5年度の広域・準用河川の整備については、予算規模は計画を上回っているものの、主な工事が橋梁等であり、かつ、用地買収や補償等もあったため、施工実績は計画を下回っている。整備や維持管理に当たっては、緑や生態系に配慮するなど、自然環境に配慮した水辺空間を形成していく。
		準用河川の整備	100m	41m	170m	
(3)健全な森づくりの推進	みどり公園課 花とみどり協働課	森林経営管理制度の意向調査実施面積(累積)	240ha	232ha	133ha	・森林経営管理制度に基づく意向調査を99ha実施し、目標である意向調査面積60haを大きく上回った。令和5年度に実施した意向調査の結果をもとに、森林所有者への制度の説明会、境界の同意、集積計画を作成し、適切な森林の管理に努める。 ・放置竹林有効利用推進事業の実施団体はいずれも増加し、助成事業の啓発活動が効果を上げ、実施により放置竹林対策が進んでいる。今後も市HPでの広報だけでなく、パンフレットの制作、説明会等により活動団体の増加に努める。
		放置竹林有効利用推進事業(竹粉碎機貸し出しなどを行う事業)	24団体	24団体	20団体	

2 身近な自然環境の保全

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)地域制緑地等による緑の保全	都市政策課 みどり政策課	風致地区内の緑の保全、啓発(HP等の広告媒体による啓発)	1件	1件	1件	・都市における良好な自然環境を維持するため、風致地区内の緑の保全の啓発をHP等で行っている。今後も引き続き保全、啓発に努める。 ・適切に管理を行っている土地所有者がいる一方、高齢化、相続、遠隔地への転居等により、管理ができていない土地所有者もいる。今後は土地所有者の保全活動の負担の軽減につながる支援策の検討を行い、継続的な保全活動に繋がる支援制度を確立する。
		環境保護地区(市街地周辺に残された貴重な緑地や自然環境として定める地区)の管理(写真2)	7,500千円	6,321千円	7,145千円	
(2)保存樹木の適正管理	みどり公園課	保存樹木(先人が残した貴重な名木や老樹を保護し、次の世代に引き継ぐために指定している樹木)の適正管理の支援(写真3)	5件	6件	9件	・地域に残る貴重な銘木や老樹を保護・育成するための保存樹木の管理は支援や助成により適正管理に努めている。今後も引き続き保存樹木の適正管理支援に取り組んでいく。
		保存樹木の助成(写真3)	10件	8件	8件	
(3)田園の保全	農業政策課	熊本市農業振興地域整備計画に基づく優良農地の確保	実施	実施	実施	・優良農地の確保・保全を図るため、農用地区域からの除外の厳格化及び要件を満たす農地の農地用区域への編入を推進することに努めた。



(写真1) 環境に配慮した河川整備(藻器堀川)



(写真2) 環境保護地区(新南部2丁目)



(写真3) 保存樹木(菅原神社 黒髪1丁目)

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)

3 地球環境や生物多様性に配慮した自然環境の保全

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度 実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)熊本市生物多様性戦略の推進	環境政策課	江津湖の外来魚駆除	20回	20回	20回	・江津湖の指定外来魚や市内のアライグマの駆除を毎年実施し、駆除を推進することができた。アライグマの確認件数・捕獲数が年々増加しているため、効率的な捕獲の手法を検討し、分布拡大の防止に努める。
		市内の外来種駆除(写真4,5)	2件	13件	10件	
(2)Eco-DRR(生態系を活用した防災・減災)の視点の推進	みどり公園課	森林間伐(立田山憩の森内保安林)(写真6)	30本	84本	76本	・調査により間伐の必要な数量が増加したため、計画よりも多くの間伐を実施した。引き続き継続して調査を行い、森林が有する防災・減災機能を発揮できるように適正管理を行う。



(写真4) 特定外来生物(アライグマ)駆除



(写真5) 特定外来生物(オオキンケイギク)の繁茂



(写真6) 土砂災害防備林(立田山)

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)

基本方針2 緑を育む(緑あふれる都市づくりに向けた緑の創出)

「緑を育む」検証指標と目標

緑視率:

人の視野を占める緑の面積の割合であり、緑視率がおよそ25%を超えると緑が多いと感じ始めるという結果がある。各地区の代表的な交差点において測定を行っている。 ※緑視率の測定は毎年秋頃(10月~11月頃)に実施

令和12年度(2030年度)

第1目標 15%以上
第2目標 25%以上

16箇所の緑視率の
の平均値

令和2年度(2020年度)
11.5%

令和4年度(2022年度)
11.5%

-0.3%

令和5年度(2023年度)
11.2%

緑視率上昇の事例
楠・武蔵ヶ丘地区



R2年10月撮影 緑視率 45%



R5年10月撮影 緑視率 59%

樹木の生長に合わせて緑
視率も上昇

緑化重点地区		単位	緑視率(%)										
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度 目標値
中心市街地	中心市街地	%	8.4	4.8	5.4	5.1							
	植木地区		10.0	10.9	9.3	7.7							
地域拠点 (都市機能誘導区域)	北部地区		4.6	5.3	5.0	6.7							
	楠・武蔵ヶ丘地区		20.3	19.1	19.0	21.0							
	八景水谷・清水亀井地区		7.3	7.8	6.1	5.2							
	子飼地区		4.2	3.3	3.7	3.1							
	長嶺地区		29.0	30.1	30.9	30.2							
	水前寺・九品寺地区		13.7	14.3	14.4	13.4							
	健軍地区		1.5	1.2	0.9	0.8							
	平成・南熊本地区		14.9	15.6	16.5	15.0							
	刈草地区		13.1	11.4	10.1	11.6							
	富合地区		10.2	6.4	8.1	9.6							
	城南地区		16.7	19.4	19.7	17.9							
	川尻地区		10.5	12.5	13.5	12.1							
	城山地区		7.3	7.5	8.2	6.8							
	上熊本地区		12.3	17.0	13.4	13.5							
第2目標値:全箇所の平均値			11.5	11.7	11.5	11.2						25.0	
第1目標値:15%以上になった箇所数		箇所	3	5	4	4						16	

中心市街地に緑が多いと
感じる市民の割合

令和元年(2019年)
73.3%

令和4年(2022年)
62.9%

-2.0%

令和5年(2023年)
60.9%

令和12年(2030年)
80%以上

※

緑視率は、第1目標の15%以上を達成した箇所は過年度同様の4箇所であった。全体の平均値については僅かではあるが減少した。一方で、民有地の樹木の生長等により緑量の増加が確認できる箇所もあるため、今後も引き続き民有地・公共地緑化を推進し緑視率の向上を目指したい。

また、令和5年度はInstagramを活用した市民参加型の緑視率調査を行った。「あなたが美しいと感じる通り(ストリート)」の写真を投稿してもらい、緑視率を分析することで、どのような空間が市民にとって良好な緑空間であるか検証した。(検証結果は、別紙3-2参照)

中心市街地に緑が多いと感じる市民の割合は、令和4年度から令和5年度にかけて減少しているため、中心市街地で実施中の緑の基本計画アクションプログラムの活動を継続実施するとともに、PR等を行い、緑が豊かと感じてもらえる取組を効果的に推進していくことが必要である。

1 効果的な公共施設等の緑の創出

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度 実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)道路の緑化	みどり公園課 みどり政策課	街路樹の維持管理	1,230,775 千円	1,230,775 千円	750,900 千円	・安全・安心の観点から街路樹再生計画に基づき、街路樹空間の整備を進めた。令和5年度から複数年契約事業を導入し、引き続き適切な維持管理を目指した取組を行っている。
		熊本市電の軌道敷緑化(緑のじゅうたん)新設 (写真7)	25m	25m	0m	・令和5年度は軌道敷緑化の新設を行い、総延長約1,014mとなった。今後も引き続き電停改良工事に合わせて緑のじゅうたんを新設していく。
(2)学校の緑化	みどり公園課 花とみどり協働課 教育委員会指導課	学校樹維持管理(剪定、危険木対応、害虫駆除)業務(写真8)	67,367 千円	74,243 千円	52,512 千円	・学校緑化の推進のため、剪定や危険木伐採、害虫駆除等適切な維持管理に努めた。今後は老木の増加、維持管理費用の増大が想定されるため、維持管理等の工夫が必要と考える。
		学校環境緑化コンクールの相談助言部門の応募校数	15校	4校	8校	・小学校1校、中学校3校の参加となり、応募校数が減少傾向にある。PRを強化し、参加校の増加を目指していく。
(3)その他の公共施設の 緑化	みどり公園課 各施設所管課	公設運動施設(全40施設)の樹木剪定・伐採	10本	10本	23本	・公設運動施設(全40施設)の樹木や除草等の適正な維持管理を行っている。公共施設におけるグリーンカーテンによる緑化や区役所の花による魅力発信事業、敷地内の樹木剪定など地域特性を活かした様々な緑化活動に取り組んでいる。グリーンカーテンから作物を収穫したり、配布したりしたことにより、地域交流のきっかけや省エネルギーの関心などにも繋がったため、引き続き適切な管理を行っていく。
		北区でのひまわりの種配布	360団体	580団体	587団体	
		グリーンカーテンを設置している施設数 (写真9)	4箇所	4箇所	4箇所	
		フラワーポットの設置数(写真10)	15基	58基	26基	



(写真7) 市電軌道敷緑化



(写真8) 学校樹維持管理



(写真9) 地域住民によるグリーンカーテンへの植栽



(写真10) フラワーポットによる緑化

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)

2 多様な主体との協働による民有地の緑の創出

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)民有地の緑化	花とみどり協働課	民有地緑化の補助金(つながりの森づくり補助金)の活用によって行われた緑化面積(写真11)	700㎡	743㎡	950㎡	・HPやチラシなどの広報を行い、つながりの森づくり補助金の活用促進に努めている。今後も引き続き活用を促進し住宅地や敷地内の緑化を推進する。
(2)商業地の緑化	建築指導課 商業金融課 みどり政策課 花とみどり協働課	商店街活性化のための補助金(緑化活動含む)	0千円	0千円	50千円	・商店街等の団体が実施する商店街活性化事業に対する補助事業であるため、緑化推進につながる事業が実施されるとは限らないが、申請があった場合は支援を行っていく。
		地域拠点における駅やバス停周辺の緑化推進として、フラワーポット等の設置(写真12)	計画値無	2件	0件	・市役所前バス停横に市民協働によるプランターの設置を行った。今後も市民参画の手法について検討しながら、花とみどり溢れるおもてなしの空間づくりに取り組んでいく。
(3)工業地の緑化	企業立地推進課	特定工場の新・増設に関する届出および適切な運用の指導	計画値無	5件	3件	・制度が適切に運用され、工場の新設等に伴う環境保全が図られている。制度の認知度向上が課題であり、HPなどの情報発信ツールの精査、経済団体等との連携による周知等を検討していく。
(4)建築・開発時における緑の保全・創出	みどり政策課	・開発行為に伴う緑化面積	17,000㎡	17,879㎡	30,191㎡	・良質な緑空間の創出のため中高木等による緑化を推進しているが、維持管理等の課題があり張芝にて緑化するケースが多い。緑豊かなまちを形成するために、引き続き事業者へ指導を行っていくとともに、良い事例についてはPRを行う等の方法も検討していく。
		・建築確認に伴う緑化面積	13,000㎡	24,298㎡	18,646㎡	
		・大規模小売店舗届出に伴う事前緑化協議	5件	7件	5件	
(5)緑を活用した景観まちづくりの推進	都市デザイン課	景観法に基づく届出制度の活用(写真13)	計画値無	221件	204件	・田園景観・既存集落景観保全ゾーンを含めた市内全域において、景観計画に定める景観形成方針、景観形成基準に適合した計画となるよう指導を行った。今後も引き続き積極的な景観指導を行う。



(写真11) つながりの森づくり補助金を活用した民有地緑化



(写真12) プランター等の設置(市役所前バス停)



(写真13) オークス通りクスノキ(北側)

3 中心市街地において本市の顔となる緑の創出

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)官民連携による緑化の推進	花とみどり協働課 都市デザイン課 市街地整備課	アーケード内の緑化(写真14)	検討中	未定	未定	・花博2023でアーケード内にフラワーベンチ、おもてなし花壇等を設置した。引き続き、市民や事業者との協働によりアーケード内の緑化の推進を行っていく。
		まちなか再生プロジェクト(中心市街地の老朽建築物の建替えを促進し、まちなかの防災機能等を向上させる取組)	10件	5件	4件	・まちなか再生プロジェクト等の推進により徐々に建替えが進んでいる。オープンスペースを確保することで滞在者数が増加し、新たなにぎわい拠点が創出された。今後も更なる建替え促進や公開空地の整備を行っていく。
(2)中心市街地での各種緑化事業の推進	みどり公園課 花とみどり協働課	熊本駅周辺の緑化推進(壁面・屋上緑化助成制度活用促進)	検討中	検討中	検討中	・壁面・屋上緑化助成制度の活用促進については、令和4年度より補助金運用について検討している。今後も熊本駅周辺の緑化を推進していく。
(3)緑化地域の指定に関する調査等	みどり政策課	緑化地域(都市環境の形成に必要な緑地が不足し、建築物の敷地に緑化を推進する必要がある地域)の候補地の選定及びその地区の指定に必要な事項についての調査検討(図1)	検討中	検討中	検討中	・緑化地域制度は敷地面積の一定割合以上の緑化を義務づける制度であるため、制限に対する反発が見込まれる。引き続き、環境保護地区等の見直しと合わせて検討する。

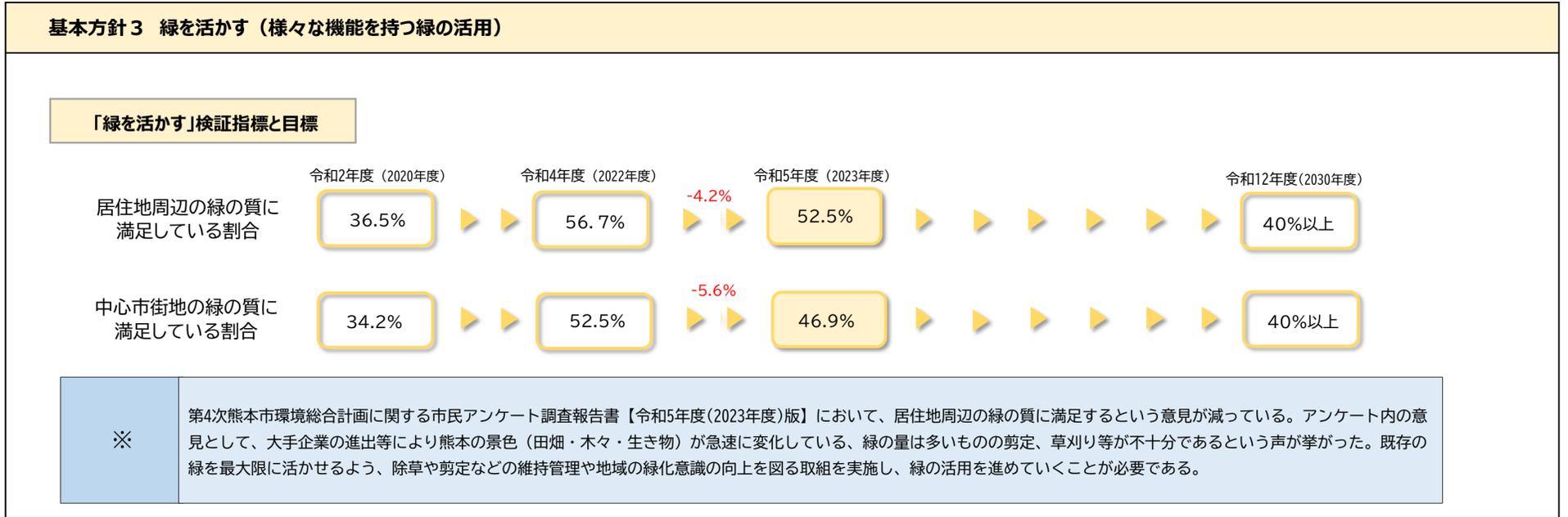


(写真14) アーケード内の緑化



(図1) 緑化地域(イメージ)

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)



1 森林等の緑の機能の活用

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)森林・竹林の維持管理と有効活用	健康づくり推進課 みどり政策課 みどり公園課 花とみどり協働課	九州自然歩道管理(金峰山周辺において地元団体に清掃やパトロールを委託)(写真14)	20回	24回	24回	・九州自然歩道に関しては県から委託を受け、金峰山・二の岳・三の岳エリアの除草、清掃、パトロールを実施した。引き続き、委託による維持管理を実施していく。
		金峰山管理(協議会事務)業務	3,157千円	2,467千円	2,592千円	・金峰山および雁回山においては、当該エリア内の登山ルート等の除草・清掃・点検等を行った。引き続き協議会にて協働で金峰山・雁回山の国有林エリアの維持を行っていく。
		雁回山管理業務(草刈、施設修繕、協議会事務等)	15,542千円	11,664千円	23,770千円	
		竹林の有効活用(タケノコ堀りイベントの開催)(写真15)	2回	2回	0回	・立田山憩いの森の活用及び竹林の適正管理を目的にタケノコ堀り体験イベントを実施した。収穫体験と合わせて食体験ができるイベントで、非常に満足度の高いイベントとなった。今後も継続的に実施し、竹林の適正管理に努める。
(2)市民農園等の有効活用	農業政策課	市民農園や観光農園等の利用促進のための情報発信	実施	実施	実施	・農水産業についての冊子の作成・配布や、市の公式SNSへの投稿などによる情報発信に取り組み、本市の農業・農作物等の魅力を広く伝えることができた。今後も継続的に多様な媒体を活用した情報発信に取り組んでいく。
(3)緑の適切な維持管理と活用	花とみどり協働課 各施設所管課	道路ふれあい美化ボランティア(道路の草刈りや清掃などを行ってもらう地元団体や企業などの団体)報償金交付制度活用	前年以上(86団体)	90団体	86団体	・160団体ある道路ふれあいボランティアの中で90団体が報償金交付制度を活用した。積極的な周知を図ったことで本制度の利用が増加していることから、引き続き活用の推進を行っていく。
		・中央大江交流室の樹木維持管理(写真16)	1,000千円	873千円	649千円	・各公共施設において、樹木の剪定や除草作業、害虫駆除など適切な維持管理に取り組んでいる。今後も各施設の除草や剪定などの維持管理手法や植栽環境等を検討しながら管理を行っていく。
		・南区役所庁舎周辺樹木草地の維持管理	640千円	933千円	933千円	
		・東区役所および秋津・託麻・東部まちづくりセンターの環境整備	1,046千円	2,310千円	952千円	



(図2) 金峰山地区俯瞰図



(写真15) タケノコ堀りイベントの様子



(写真16) 大江交流室の樹木剪定

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)

2 都市公園の魅力の向上による身近な緑の活用

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)公園の特性に応じた活用の推進	熊本城総合事務所 スポーツ振興課 動植物園 文化財課 みどり公園課 花とみどり協働課 みどり政策課	・「熊本城みどり保存管理計画」策定業務	策定済	策定済	3,487千円	・熊本城公園においては、みどり保存管理計画に則った樹木管理を行い、危険木への対応も予定どおり実施できた。令和6年度からは遺構影響木の撤去に着手予定である。
		・熊本城内の危険木撤去(写真17)	150本	153本	108本	
		・動植物園マスタープランに掲げる施設整備	42,400千円	66,737千円	39,918千円	・動植物園マスタープランに基づき、園内の施設整備を適切に行うことができた。引き続き自然環境と調和のとれた快適で魅力的な動植物園を目指す。
		・歴史公園(北岡自然公園他5公園)の公園維持管理(清掃・除草・樹木剪定等)	15,200千円	21,533千円	23,505千円	・歴史公園等で清掃、除草、樹木剪定等の維持管理を行うことができた。高木や樹木が多く存在しているため、調査・点検、剪定・伐採を継続し、歴史公園を適切に維持管理していく。
		・史跡公園樹木点検調査業務	4,800千円	3,850千円	2,915千円	
(2)既存公園の有効活用	健康づくり推進課 みどり公園課 みどり政策課	・公園施設の更新(改修)(写真18)	191公園	246公園	211公園	・長寿命化計画に基づく遊具等の更新を累計246公園で行った。今後も既存公園施設の更新を実施していく。
		・水前寺江津湖公園の熊本健康アプリへの登録	1公園	4公園	1公園	・令和3年度から「江津湖ヘルシーマイレージ」を継続しており、達成者数が1500人を超えた。今後は新規公園での実施やミッション達成者数2000人を目指す。
(3)官民連携による公園の魅力の向上	みどり政策課 みどり公園課 花とみどり協働課	・公募設置管理制度(Park-PFI)の導入に向けた検討(サウンディング等)	1公園	1公園	2公園	・Park-PFIの周知と意見収集のため、水前寺江津湖公園(広木地区)でオープンハウスを実施した。具体的な公募条件を詰めるためのサウンディング調査を実施したが、採算性に課題があることが判明したため、事業内容を再検討している。
		・指定管理者制度を活用した公園	前年以上(1公園以上)	1公園	1公園	・令和5年度は新規の指定管理者制度導入公園なし。引き続き、地域住民や民間企業等の民間活力を導入した公園づくりの推進を行う。
		・公園地域パートナー事業(熊本市と自治会等の地元団体が委託業務契約を交わし、公園の草刈剪定などを行う事業)の公園(写真19)	26公園	50公園	34公園	・新規契約団体数が増えたことにより、令和4年度から大幅な公園数の増加となっている。地域コミュニティの構築だけでなく、維持管理費の削減へと繋がっている。
		・寄付によるベンチの設置(写真20)	1公園	2公園	0公園	・令和4年度に実施したクラウドファンディングを活用し、水前寺江津湖公園(3基)と坪井川緑地(2基)にベンチを設置した。引き続き、課題や成果等を検証し、事業の継続を図る。
(4)熊本地震を踏まえた災害に役立つ公園づくり	危機管理課 みどり公園課 消防局警防課 健康福祉政策課	・防災倉庫内の棚卸し	1回	1回	1回	・各公共施設が所管する防災倉庫計10箇所の点検・管理を行った。今後は防災倉庫や耐震性貯水槽の老朽化の状況等も含め、引き続き定期的な点検や適正な管理を行っていく。
		・防災倉庫の点検・管理	10箇所	10箇所	10箇所	
		・耐震性貯水槽の管理	1,000千円	743千円	709千円	
(5)公園の新たな取組の検討	みどり公園課 みどり政策課	・協議会制度(都市公園法第17条の2)の検討	検討	検討	検討	・狭小公園の利活用等の検討とあわせ、協議会の設立に向け調整・検討を進めていく。 都市公園法第17条の2・・・公園管理者は、都市公園の利用者の利便の向上を図るために必要な協議を行うための協議会を組織することができる。



(写真17) 熊本城樹木維持管理(危険木)



(写真18) 公園施設の更新(八王子中央公園)



(写真19) 公園パートナー事業(作業状況)



(写真20) 水前寺江津湖公園に設置したベンチ

3 特色を生かした緑地の活用

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)自然環境を保全・活用した都市緑地の整備	みどり公園課	・小山中山緑地遊歩道整備(写真21、22)	0m	0m	180m	・市街地及びその周辺に残る良好な緑地の保全として小山中山緑地遊歩道整備は計画どおり進んでいるが、令和5年度は休止。
		・白川左岸緑地(緑の区間)の有効活用に向けた取組(写真23)	6回	7回	7回	・白川左岸緑地で夜市を定期的に開催し、快適でにぎわいのある空間を創出した。国やまちづくりセンターと連携し、引き続き快適でにぎわいのある空間の整備を進める。



(写真21) 神園山小山中山緑地 遊歩道:整備前

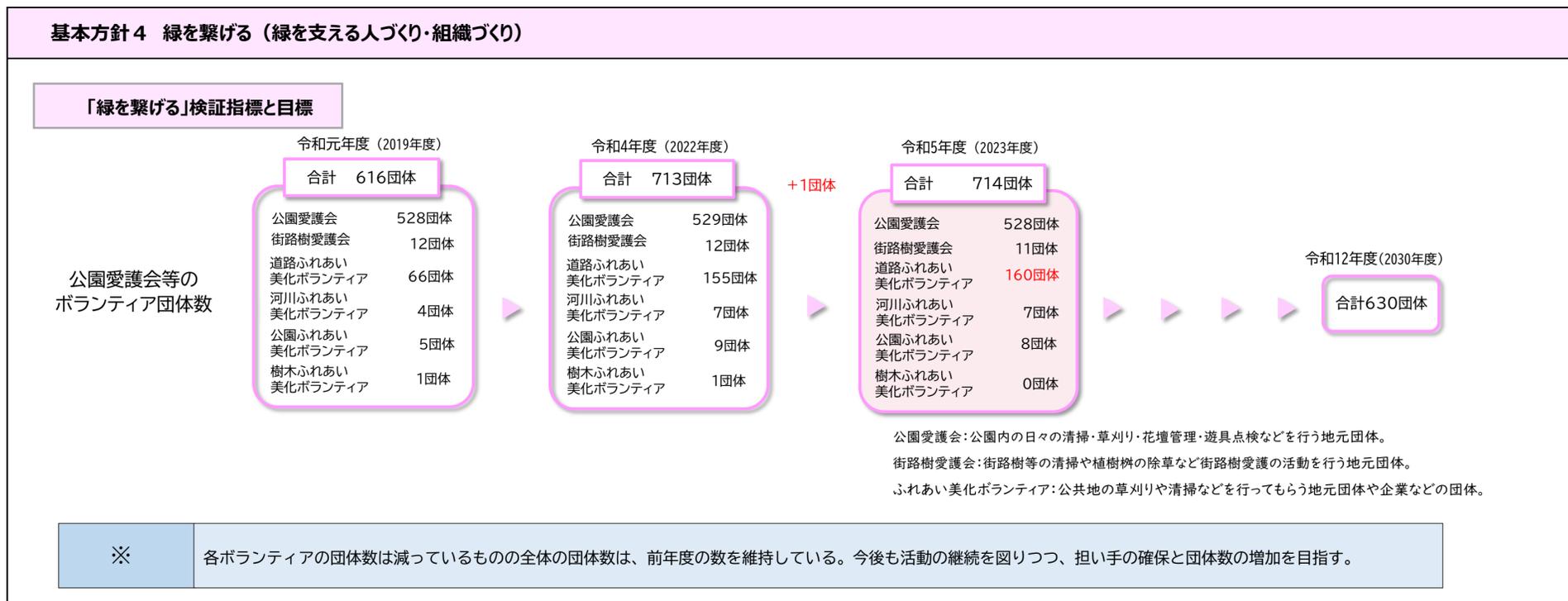


(写真22) 神園山小山中山緑地 遊歩道:整備後



(写真23) 白川左岸緑地:白川夜市の開催

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)



1 緑に親しみ学ぶことによる市民の緑化意識の高揚

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1) 緑化に関する行事の開催・情報発信の充実	花とみどり協働課 動植物園 みどり政策課 みどり公園課 国際課	・くまもとオープンガーデン(市民や企業の皆様の庭を公開し、来場者に巡って楽しんでもらう取組)(写真24)	24箇所	46箇所	43箇所	・令和5年度2カ月余りの期間オープンガーデンを開催し、46箇所のオーナーが参加した。来訪者とお花を通じたコミュニケーションを楽しんでいたこと、花緑への関心が向上した。
		・くまもと花博2023の開催(写真25)	20万人	21万人	—	・積極的な広報活動や週末のイベント開催等により、目標来場者数を達成した。自然とのふれあいを通じて、花や緑について身近に感じ、学ぶ場を設けることができた。市民の方にとって花や緑のある暮らしが日常となるように、引き続きイベントの企画・運営を行う。
		・熊本市動植物園にある緑の相談所における、相談件数	計画値無	1,477件	1,741件	・相談員が講師を務める出前講座の実施や問合せが年々増加している。今後も市民に情報を提供できるよう努める。
		・緑視率調査への市民参加	10件	27件	0件	・市民参加型のキャンペーンとしてSNSを活用した緑視率調査を行った。今後も参加PR方法の検討を行う。
		・維持管理に係るフランスでの技術指導	未定	2,517千円	0千円	・フランス・エクサンプロヴァンス市が実施した日本庭園への改修お披露目式典の参加に当たり、「竹あかり」及び「三角灯籠」演出を併せて開催した。竹あかり制作の技術指導を行い、継続的に開催できる仕組み作りも行った。
		・サンアントニオ市日本庭園東屋改修	10,000千円	14,000千円	14,000千円	・令和5年度にサンアントニオ市日本庭園の東屋の改修を行った。令和6年度には竹垣の撤去・新設を予定しており、適正な維持管理を行っている。
(2) 市民や子どもたちの緑化意識の高揚・情操教育の充実	花とみどり協働課 環境総合センター 環境政策課 動植物園 みどり公園課 教育委員会指導課	・緑のマスター(養成講座で育成した地域の緑化リーダー)による少年団の指導	1回	0回	1回	・令和5年度は緑の少年団に対する緑のマスターによる講習会は未実施。花博2023では、まち山エリア(金峰山)にて、ツリークライミングへの参加や森のお仕事体験を行い、緑の少年団同士の交流の場ともなった。緑の少年団の制度自体、継続が難しくなっているため、今後の制度の在り方を検討する。
		・学校環境緑化コンクールの実施校数	40校	25校	38校	・令和5年度は小学校14校(全92校)、中学校11校(全44校)の参加があり、17校が表彰を受けた。参加校が減少しているため、令和5年度から参加校に対して、参加賞の配布を行った。この効果検証を行い、今後も参加校を増やす取組を行っていく。一方で、環境緑化教育の取組が評価され、芳野小学校が令和5年度緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰を受賞した。
		・自然観察会の開催の推進(写真26)	10回	14回	26回	・冬の上江津湖に生息する野鳥を、親子で観察し、生物多様性(人と自然との共生)について学び考える体験学習の実施に努めた。今後も引き続き実施していくが、参加者が比較的小な講座もあったことから、周知方法等の工夫が必要と考える。
		・記念樹の配布	500件	473件	495件	・記念樹は前年度と比べると減ったが、概ね平年と同等の希望者があった。引き続き市民ニーズに合った新たな樹種を追加することを検討する。
		・山への樹名板設置	50個	67個	0個	・森林総合研究所と共同で雁回山の遊歩道に樹名板を設置した。引き続き、樹名板の設置に取り組む。
		・地域ボランティアやPTA等と連携した学校緑化活動を行う学校数	140校	99校	115校	・新型コロナウイルスの影響により、多くの人を集めて緑化活動をする場面が減ってきている。小中学校へのアンケート内容を検討し、状況把握に努め、地域ボランティアやPTA等と連携した学校緑化活動を行っていく。



(写真24) くまもとオープンガーデン



(写真25) くまもと花博2023



(写真26) 自然観察会

基本方針ごとの検証指標の目標と実績及び施策事業実績の評価(令和5年度)

2 市民・事業者・行政の協働による緑化活動の展開の促進

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)市民団体の活動促進	花とみどり協働課 河川課 水保全課 土木総務課 みどり政策課 みどり公園課 環境政策課	・公園愛護会のある公園(写真27)	676公園	697公園	698公園	・高齢化等による後継者不足により、公園愛護会のある公園数としては1減となっているものの、市HPや愛護会だよりでの広報活動により、愛護会結成に関する問合せは増えつつある。引き続き、市HPやSNS等で広く周知を行う。
		・地元団体や企業などが公共地の草刈りや清掃などを行うふれあい美化ボランティアへの支援団体	前年度以上 道路155 河川7 公園9	(団体数) 道路160 河川7 公園8	(団体数) 道路155 河川7 公園9	・道路・河川・公園ふれあい美化ボランティア活動による維持管理は適切に行われている。今後も制度の周知や広報活動に努める。
		・市民団体相互の情報共有のためのプラットフォーム設置運用(登録団体数)	維持	17団体	16団体	・令和5年度末時点でプラットフォーム(いきもんネット)に17団体が加入している(1団体増加)。引き続きプラットフォーム(いきもんネット)について情報発信を積極的にを行い、各団体間の相互連携を深める取組を検討する。
(2)緑化活動を通じた健康づくり	健康づくり推進課 花とみどり協働課 各施設所管課	・自治会などの地元団体や保育園等への花苗配布	1,600団体	1,399団体	1,560団体	・配布団体数は減ったものの、花苗の種類を増やすなど市民ニーズに対応できるような工夫を加え、かつ、配布株数も増やし、希望株数に対する配布株数の割合が令和4年度に比べ多くなるよう配慮した。
(3)緑化技術の普及	動植物園 花とみどり協働課	・緑化に関する講習会として花と緑の講習会	22回	23回	14回	・市民のニーズに合わせたメニューを追加し、講習会を開催した。いずれも、定員を超える応募があり好評であった。今後は専門的なプログラムを構築するとともに、市民のニーズに合わせた講習会を行っていく。
		・緑のマスター(地域の緑化リーダー)の養成(写真28)	100人	69人	63人	・令和5年度は新たに5名の方がマスターに認定され、技術力アップを目的にスキルアップ講座を実施した。今後も養成講座を開催し、緑のマスターを新規に認定していく。
(4)企業等の緑化活動推進	花とみどり協働課 河川課	・企業から協賛金を募り、熊本市が管理する植樹帯等を整備運営してもらすponsor花壇の維持管理	400㎡	400㎡	400㎡	・国際交流会館前にプランターを設置し、新型コロナウイルス(CVD-9)の5類への引き下げに伴う熊本城への観光客の増加にあわせて、お花でのおもてなしの強化を図った。今後もボランティアや企業と連携を図り、継続的な管理が進められるような工夫を検討する。
		・sponsor花壇拡充(図4)	16箇所	16箇所	15箇所	



(写真27) 愛護会による公園の清掃状況



(写真28) 緑のマスターの取組



(図4) スポンサー花壇

3 緑化推進のための組織運営の強化

項目	担当課	令和5年度実績			R4年度実績値	評価及び今後の取組
		項目	計画値	実績値		
(1)基金等の活用	みどり政策課	・熊本市ふるさとの森基金(熊本市の良好な自然環境の確保に資することを目的に設立した基金)への寄付	3,000千円	12,003千円	2,800千円	・令和5年度の1月から、ふるさと納税のポータルサイト中の寄付の使い道に「熊本市の自然環境を豊かに(ふるさとの森基金)」を追加したことにより、寄付額が大幅に増えた。認知度を上げるため、SNS等を活用し、情報発信を行う。
		・緑のじゅうたんサポーターの募金(図5)	8,000千円	3,664千円	7,900千円	・緑のじゅうたんサポーターを増やすため、HPやSNS等をおして情報発信を行った。今後は企業版ふるさと納税等の活用を検討する。
(2)関係団体との連携	みどり政策課 花とみどり協働課	・緑化活動を通して森づくりや人づくりを行うことを目的とした緑の募金(写真29)	20,000千円	17,495千円	18,576千円	・広報活動や街頭募金等を行い、個人・事業者共に多数の募金をいただいた。この募金を活用し、花苗の配布や緑化資材等の購入費用の助成や学校環境緑化コンクールを行うなど、緑化の推進を行った。
		・くまもと緑・景観協働機構(民間緑化や景観形成活動の支援などを主たる目的として設立された組織)の制度の活用	30件	84件	49件	・当該事業の広報に力を入れた結果、周知が進み、活用団体は増加傾向にある。(特に、花いっぱい運動支援事業)今後も引き続き当該事業を活用いただけるよう周知に努める。
		・子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会への参加(写真30)	1回	1回	1回	・仙台市で開催された子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会において、くまもと花博2023を全国へアピールするとともに、会員相互に連携・情報交換を行うことができた。



(図5) 市電緑のサポーター募集のポスター



(写真29) 緑の募金活動



(写真30) 子どもたちと地域の未来を考える花と緑のまちづくり全国首長会